

令和 7 年度
運営に関する計画



大阪市立大開小学校
令和 7 年 9 月

大阪市立大開小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校では、令和7年度の中期目標を意識した年度目標を掲げ、その目標に向かって様々な方向から子どもたちを捉えながら、力を伸ばすための取り組みを行ってきた。学力調査や児童質問紙から捉える児童の実態は少しずつ改善しつつあるが、課題とする部分も明らかになってきている。

最重要目標1の【安全・安心な教育の推進】では、生活指導部を中心として、児童にいじめについての正しい知識を身につけさせるように、全校、学年、学級と多くの場面で繰り返し考えさせてきた。どんな理由があってもいじめるほうが悪いという考え方が定着しつつある。結果としては、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」という質問に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合が、目標の85%に対して、小学校学力経年調査（令和6年度）においては87.3%であり、令和5年度結果よりも7.4ポイント向上している。

「自分には良いところがありますか」の質問には肯定的に回答する児童の割合が73.2%であり、年度目標を達成したが大阪市平均を下回る結果となった。校内では、継続的に心の週間を設定し、良いところ見つけに取り組んだり異学年交流なども続けたりしているが、自分の良さを見つけるには至っていない児童が一定数いる現状がある。人と比べない価値観や自分を大切にすることの良さを児童に浸透させていくための取り組みを続けていきたい。

最重要目標2の【未来を切り拓く学力・体力の向上】では、ペア学習や話し合い活動を取り入れ、児童の考えが深まるような授業展開を計画するように取り組んだ。令和6年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合が50.1%となり、児童の話し合い活動への意識は変わりつつあるといえる。今後は、話し合う活動から学習の面白さに気付いたり、友達の意見を知ることでさらに調べたくなったりするような授業展開へ発展させ、学力の向上へつなげていくことを目指す。

体力の向上については、全国体力・運動能力、運動習慣等調査（令和6年度）において、1週間の総運動時間が60分未満の児童の割合が14.3%であり、年度目標を上回った。日常的な運動量を増加させる取組をさらに工夫して行い、様々な運動経験や運動を好きになるきっかけづくりを行っていく。

最重要目標3の【学びを支える教育環境の充実】の学習者用端末の活用については、令和6年度で大幅に向上し、全校児童の8割以上が学習者用端末を活用した日が年間授業日数の70.6%となり、目標の50%を大きく超えることができた。児童が日常的に端末を活用することが定着していることを活かし、タイピングやプレゼンテーション等のスキルを向上させていきたい。

働き方改革については、勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を増加させるように取り組みを行った。その結果、令和6年度は63.3%となり、大阪市平均を上回る程度に改善された。学年に関わる教員をグループとして捉え、業務負担の平準化を進められるように取り組んでいく。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれぐらいの時間読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合が令和6年度は15.8%であり、大阪市平均（24.5%）を上回っている。今年度も読書活動を推進するための様々な取り組みを継続し、どの児童も読書の面白さや有益性が分かることを目指していきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

○令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童生徒の割合を、87.4%以上にする。

◆ 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

○令和7年度の小学校学力経年調査における「自分には良いところがありますか」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を73.3%以上にする。

◆ 基本的な方向2 豊かな心の育成

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、50.2%以上にする。

◆ 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「1週間の総運動時間」が60分未満の児童の割合を、14.2%以下にする。

◆ 基本的な方向5 健やかな体の育成

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度の授業日において、児童の80%以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70.7%を超えるようにする。

◆ 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

○令和7年度において、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を63.4%以上にする。

◆ 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

○令和7年度の小学校学力経年調査において「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を15.7%以下にする。

◆ 基本的な方向8 生涯学習の支援

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

○令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、87.4%以上にする。

◆ 基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現

○令和7年度の小学校学力経年調査における「自分には良いところがありますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、73.3%以上にする。

◆ 基本的な方向2 豊かな心の育成

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

○令和7年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、50.2%以上にする。

◆ 基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「1週間の総運動時間」が60分未満の児童の割合を、14.2%以下にする。

◆ 基本的な方向5 健やかな体の育成

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

○令和7年度の授業日において、児童の80%以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70.7%を超えるようにする。

◆ 基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

○令和7年度において、教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を63.4%以上にする。

◆ 基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり

○令和7年度の小学校学力経年調査において「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を15.7%以下にする。

◆ 基本的な方向8 生涯学習の支援

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立大開小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和 7 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 87.4%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">◆ 基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現</p>	B
<p>○令和 7 年度の小学校学力経年調査における「自分には良いところがありますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、73.3%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">◆ 基本的な方向 2 豊かな心の育成</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【◆ 基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>○学期に 1 回以上、道徳や学級活動を通して「いじめ」について考える授業を行う。また、毎月初めの朝学習の時間に「いじめ」について考える機会を設定する。</p> <p>指標 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を、87.4%以上にできたか。</p>	B
<p>取組内容② 【◆ 基本的な方向 2 豊かな心の育成】</p> <p>○1・2 学期に「心の週間」を設定する。「いいとこみつけの木」は毎学期、2 学期には「ハッピーカード」の取組を行い、自己肯定感を高められるようとする。また、心の週間の実施月の学校だより等で保護者に「心の週間」を周知し、家庭でも自己肯定感を高めるような声掛けを啓発する。</p> <p>○児童集会や学校行事などのたてわり班活動を通して、自己有用感を高められるような取組を行う。</p> <p>指標 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「自分には良いところがありますか」の項目について、肯定的に答える児童の割合を、73.3%以上にできたか。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

各学年、計画通り進められている。

令和7年度後半の改善点

「いじめについて考える日」の日には職員室のホワイトボードで周知する。
毎月いじめについて考えることを意識したり、困っていることを訴えやすい雰囲気を作ったりすることができるような声掛けをしていく。

「いいとこみつけの木」の効果が薄れていますので、来年度に向けてアレンジするのか、新しい取り組みをしていくのか考えていく。

大阪市立大開小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、50.2%以上にする。</p> <p style="text-align: center;">◆ 基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上</p> <p>○令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「1週間の総運動時間」が 60 分未満の児童の割合を、14.2%以下にする。</p> <p style="text-align: center;">◆ 基本的な方向 5 健やかな体の育成</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【◆ 基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>○学年に応じて、ペア学習やグループ学習を計画的に取り入れ、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを聞いたりすることができるようになる。</p> <p>○授業後には、「誰が」「何を言ったか」などの視点をもたせ、友だち同士のつながりのある「ふりかえり」を行う。</p> <p>指標 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を、50.2%以上にできたか。</p>	B
<p>取組内容② 【◆ 基本的な方向 5 健やかな体の育成】</p> <p>○学期に1回、「運動大好き週間」を設定し、「がんばりカード」を取り入れ、進んで体を動かすことができるようになる。</p> <p>○年に1回以上、ペア学年交流や運動委員会による発表を実施し、外で遊んだり、体を動かしたりするきっかけ作りを行う。</p> <p>指標 令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「1週間の総運動時間」が 60 分未満の児童の割合を、14.2%以下にできたか。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

- ・各教科で、ペア学習やグループ学習を取り入れた授業を行うことができている。
- ・ふりかえり活動も行っているが、自分の活動のふりかえりにとどまっている児童もまだ多く見られる。

取組内容②

- ・1学期は、長縄に取り組んだ。各学年目標を設定し、意欲的に取り組むことができた。学年に応じて、みんな遊びやペア学年交流を行い、外で体を動かす機会を作った。

令和7年度後半への改善点

取組内容①

- ・「誰が」「何を言ったか」の視点を意識した、ふりかえりを行うようにする。ふりかえりの時間の確保に努め、継続して取り組む。

取組内容②

- ・1学期の後半から、暑さ指数の関係で体を動かす機会が減った。運動委員会のビデオを活用し、教室内でストレッチ等を行う時間を設ける。
- ・「運動大好き週間」の前後で、運動委員会によるアナウンスを実施し、意識付けを行う。

(様式 2)

大阪市立大開小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>○令和 7 年度の授業日において、児童の 80 %以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 70.7 %を超えるようにする。</p> <p style="text-align: center;">◆ 基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進</p> <p>○令和 7 年度において、教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 63.4 %以上にする。</p> <p style="text-align: center;">◆ 基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり</p> <p>○令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を 15.7 %以下にする。</p> <p style="text-align: center;">◆ 基本的な方向 8 生涯学習の支援</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【◆ 基本的な方向 6 教育 DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】</p> <p>○「心の天気」の活用を徹底し、児童が学習者用端末を活用するきっかけ作りを行う。</p> <p>指標 令和 7 年度の授業日において、児童の 80 %以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 70.7 %を超えたか。</p>	B
<p>取組内容② 【◆ 基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>○会議時間の短縮、多忙期には極力会議を回避、学校行事や会議の精選等を行い、労働時間を短縮させる。</p> <p>指標 令和 7 年度において、教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 63.4 %以上にできたか。</p>	B
<p>取組内容③ 【◆ 基本的な方向 8 生涯学習の支援】</p> <p>○読書週間を設定し、期間中にお話会やお薦めの本の紹介を行う。また、読書通帳を見える化し、児童にとって達成感を感じやすい取り組みを継続する。</p> <p>指標 令和 7 年度の小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を 15.7 %以下にできたか。</p>	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ・取組内容①については、児童の80%以上が学習者用端末を活用した日数の割合が、指標である70.7%を超え75.0%（9月時点）となった。全学年において、毎日の心の天気の入力をはじめとして、積極的に学習活動に学習者用端末を活用する機会を設けることができている。
- ・取組内容②については、教員の時間外勤務の上限に関する基準1を満たす教職員の割合が指標である63.4%を超え67.7%となった。教職員全体としての時間外勤務の短縮はできている。
- ・取組内容③については、読書通帳見える化し、各児童がどれだけ本を読んでいるか把握しやすくしている。しかし、クラスによっては通帳の書き込みが少なく、読書に対する苦手意識を持ってたり、読書通帳に書き込むことが手間と思っていたりする児童がいるのだと推測される。

令和7年度後半への改善点

- ・取組内容①については、心の天気だけでなく、classroomを中心とした教育DXの推進を継続する。
- ・取組内容②については、更なる業務の平準化・行事の精選を行うとともに、教員間で決定事項の認識にズレが起きないように、情報共有をおこなう場を設定する必要がある。
- ・取組内容③については、教員が声掛けを行ううとともに、読書通帳をデジタル化することを検討していく。